

OSP 1448
US

日本特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

13XU9-19US01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office

出願年月日

Date of Application:

2002年 9月19日

出願番号

Application Number:

特願2002-273351

[ST.10/C]:

[JP2002-273351]

出願人

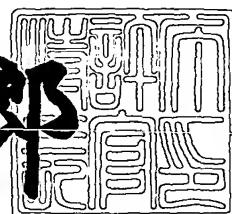
Applicant(s):

本田技研工業株式会社

2003年 6月23日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3049148

【書類名】 特許願
 【整理番号】 H102238601
 【提出日】 平成14年 9月19日
 【あて先】 特許庁長官 殿
 【国際特許分類】 B60N 2/00
 【発明の名称】 車両用シート配列構造
 【請求項の数】 4
 【発明者】
 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
 【氏名】 稲見 哲也
 【発明者】
 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
 【氏名】 白勢 治
 【発明者】
 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
 【氏名】 中村 芳則
 【発明者】
 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
 【氏名】 渡辺 晋介
 【発明者】
 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内
 【氏名】 小池 欧介
 【特許出願人】
 【識別番号】 000005326

【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100064908

【弁理士】

【氏名又は名称】 志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】 100108578

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】 100101465

【弁理士】

【氏名又は名称】 青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】 100094400

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】 100107836

【弁理士】

【氏名又は名称】 西 和哉

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【弁理士】

【氏名又は名称】 村山 靖彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008707

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705358

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 車両用シート配列構造

【特許請求の範囲】

【請求項1】 前から一列目が左右両側に配置される一対の第1側部シートとこれら第1側部シートの間に配置される第1中央シートとを有し、前から二列目が左右両側に配置される一対の第2側部シートとこれら第2側部シートの間に配置される第2中央シートとを有する車両用シート配列構造において、

前記第1中央シートは前記一対の第1側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、

前記一対の第1側部シートは前記第1中央シートと前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされており、

前記第1中央シートの幅は前記一対の第1側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされていることを特徴とする車両用シート配列構造。

【請求項2】 前記第2中央シートは前記一対の第2側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、

前記一対の第2側部シートは位置固定とされており、

前記第2中央シートの幅は前記一対の第2側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされていることを特徴とする請求項1記載の車両用シート配列構造。

【請求項3】 前記一対の第2側部シートおよび前記第2中央シートは荷室の直前位置に設けられており、

前記第2中央シートをそのシートバックを前倒させた状態で前方の低位のフロアに落とし込むことにより、該第2中央シートのシートバックから前記荷室のフロアまで略平坦な逆T字状のフロアを形成して該逆T字状のフロア上に逆T字状のスペースを形成することを特徴とする請求項1または2記載の車両用シート配列構造。

【請求項4】 前記第1中央シートのシートバックを前倒させることにより、前記逆T字状のフロアを前記第1中央シートのシートバックまで前方に延長して前記逆T字状のスペースを前記第1中央シートのシートバック上まで前方に延

長することを特徴とする請求項3記載の車両用シート配列構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、車両用シート配列構造に関する。

【0002】

【従来の技術】

車両用シート配列構造に関する技術として、例えば特許文献1に記載されたものがある。

【0003】

【特許文献1】

実開昭56-83537号公報

【0004】

上記特許文献1には、前から一列目が左右両側に配置される一対の側部シートとこれら側部シートの間に配置されるこれらと同幅の中央シートとを有し、前から二列目が左右両側に配置される一対の側部シートとこれら側部シートの間に配置されるこれらと同幅の中央シートとを有する構造が記載されている。そして、この構造においては、中央シートは一対の側部シートと一列状をなした状態から後方にスライド可能とされ、一対の側部シートは位置固定とされている。これは、同列の側部シートおよび中央シートをV字状にレイアウト可能とすることで、乗員同士の肘や肩の干渉を防止して、乗員に窮屈な思いをさせないようにするものである。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

上記特許文献1に記載された技術では、前から一列目の側部シートが位置固定であるため、体格の異なる運転者が乗車する場合、運転者によっては運転にくくなってしまうという問題がある。

【0006】

ところで、小型乗用車両においても、使い勝手性向上等の観点から6人乗りを

可能とすることが望まれており、上記のようなV字状のシートレイアウトを採用することが、乗員同士の干渉を防止する上で有効である。しかしながら、小型乗用車両では、単純にV字状のレイアウトを可能とするだけでは、例えば6人乗車以外のときに主に乗員が着席する側部シートの幅が狭くなり、座り心地が悪くなってしまうという問題があった。6人乗車が可能であっても6人が乗車することの頻度は非常に低いことから、このように頻度の低い6人乗車のために圧倒的に頻度の高い少人数乗車時の座り心地を犠牲にすることは好ましくない。また、三人掛けのシートをV字状にレイアウトすることが可能であったとしても、乗員がそのことを知らずにいて、窮屈な感じを受け適当にシートをスライドさせてもこのようなレイアウトにできない場合があれば、諦めて窮屈なまま我慢してしまう可能性がある。

【0007】

したがって、本発明は、運転者が運転しにくくなることを防止でき、また少人数乗車時の座り心地が犠牲になることも防止できて、さらに適当にシートをスライドさせるだけでV字状のレイアウトが可能となる車両用シート配列構造の提供を目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、請求項1に係る発明は、前から一列目が左右両側に配置される一対の第1側部シート（例えば実施の形態における第1側部シート11）とこれら第1側部シートの間に配置される第1中央シート（例えば実施の形態における第1中央シート16）とを有し、前から二列目が左右両側に配置される一対の第2側部シート（例えば実施の形態における第2側部シート21）とこれら第2側部シートの間に配置される第2中央シート（例えば実施の形態における第2中央シート26）とを有する車両用シート配列構造において、前記第1中央シートは前記一対の第1側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、前記一対の第1側部シートは前記第1中央シートと前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされており、前記第1中央シートの幅は前記一対の第1側部シートのそれぞれの幅よりも

狭くされていることを特徴としている。

【0009】

これにより、一列目の一対の第1側部シートが前後スライド可能とされているため、運転者の体格に合わせて前後位置を調節することができる。

【0010】

また、一列目において、第1中央シートは一対の第1側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一対の第1側部シートは第1中央シートと前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされているため、三人掛けをしたとき、乗員がV字状のレイアウトができるなどを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて適当にシートをスライドさせれば確実にV字状のレイアウトになる。

【0011】

さらに、一列目において、第1中央シートおよび一対の第1側部シートは互いの前端部同士を合わせることができるために、第1中央シートが第1側部シートに対しづれていないレイアウトにできる。

【0012】

加えて、第1中央シートの幅は一対の第1側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第1側部シートの幅を確保できる。

【0013】

以上により、第1中央シートの幅を狭くするとともに第1側部シートの幅を広くすることで、小型乗用車両の制限されたスペース内での6人乗りを可能とともに、V字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止して快適な6人乗りを可能とする。

【0014】

請求項2に係る発明は、請求項1に係る発明において、前記第2中央シートは前記一対の第2側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、前記一対の第2側部シートは位置固定とされており、前記第2中央シートの幅は前記一対の第2側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされ

ていることを特徴としている。

【0015】

これにより、二列目においても、第2中央シートは一対の第2側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一対の第2側部シートは位置固定とされているため、三人掛けをしたとき、乗員がV字状のレイアウトができるなどを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて第2中央シートの乗員が適当にシートをスライドさせれば確実にV字状のレイアウトになる。

【0016】

さらに、第2中央シートおよび一対の第2側部シートも互いの前端部同士を合わせることができるために、第2中央シートも第2側部シートに対しづれていないレイアウトにできる。

【0017】

加えて、第2中央シートの幅は一対の第2側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第2側部シートの幅を確保できる。

【0018】

以上により、第2中央シートの幅を狭くするとともに第2側部シートの幅を広くすることで、小型乗用車両の制限されたスペース内の6人乗りを可能とともに、V字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止して快適な6人乗りを可能とする。

【0019】

請求項3に係る発明は、請求項1または2に係る発明において、前記一対の第2側部シートおよび前記第2中央シートは荷室（例えば実施の形態における荷室30）の直前位置に設けられており、前記第2中央シートをそのシートバック（30）の直前位置に設けられており、前記第2中央シートをそのシートバック（30）を前倒させた状態で前方の低位の例えは実施の形態におけるシートバック28）を前倒させた状態で前方の低位のフロア（例えは実施の形態における低位フロア31）に落とし込むことにより、該第2中央シートのシートバックから前記荷室のフロアまで略平坦な逆T字状のフロア（例えは実施の形態における逆T字状のフロア66）を形成して該逆T字

状のフロア上に逆T字状のスペース（例えば実施の形態における逆T字状のスペース67）を形成することを特徴としている。

【0020】

このように、第2中央シートをそのシートバックを前倒させた状態で前方の低位のフロアに落とし込むことで、第2中央シートのシートバックから荷室のフロアまで略平坦な逆T字状のフロアを形成してこの逆T字状のフロア上に逆T字状のスペースを形成することになるため、長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手が向上する。

【0021】

請求項4に係る発明は、請求項3に係る発明において、前記第1中央シートのシートバックを前倒させることにより、前記逆T字状のフロアを前記第1中央シートのシートバックまで前方に延長して前記逆T字状のスペースを前記第1中央シートのシートバック上まで前方に延長することを特徴としている。

【0022】

このように、第1中央シートのシートバックを前倒させることで、逆T字状のフロアを第1中央シートのシートバックまで前方に延長し逆T字状のスペースを第1中央シートのシートバック上まで前方に延長することになるため、さらに長い長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手がさらに向上する。

【0023】

【発明の実施の形態】

本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を図面を参照して以下に説明する。なお、以下の説明において用いる前後左右は車体における前後左右である。

【0024】

本実施形態の車両用シート配列構造は、図1に示すように、前から一列目が左右両側に配置される一対の第1側部シート11とこれら第1側部シート11の間に配置される第1中央シート16とを有する3人掛けとされ、前から二列目も左右両側に配置される一対の第2側部シート21とこれら第2側部シート21の間に配置される第2中央シート26とを有する3人掛けとされ、二列目の直後位置

に荷室30が設けられた6人乗りのものである。

【0025】

前から一列目の左右一対の第1側部シート11は、それぞれ、シートクッション12とシートクッション12の後端側に連結されたシートバック13とを有しており、それぞれ単独で、シートクッション12の下側に設けられたスライド機構14によって前後スライド可能となっている。なお、これら第1側部シート11は左右方向の幅を含めて同じ大きさとなっている。また、これら第1側部シート11はスライド機構14による前後スライドの範囲が互いに一致している。

【0026】

一列目の両第1側部シート11の間に設けられる第1中央シート16は、両第1側部シート11のそれぞれの左右方向幅よりも幅狭とされている。第1中央シート16は、シートクッション17とシートクッション17の後端側に連結されたシートバック18とを有しており、シートクッション17の下側に設けられたスライド機構19によって単独で前後スライド可能となっている。なお、第1中央シート16のシートバック18は、シートクッション17に全体的に載置されるように前倒可能とされている。また、第1中央シート16は、第1側部シート11に対し、左右方向の幅以外は実質的に同じ大きさとなっている。

【0027】

ここで、第1中央シート16はスライド機構19による前後スライドの範囲が第1側部シート11のスライド機構14によるスライド範囲に対し後側にずれており、第1中央シート16は一対の第1側部シート11と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一対の第1側部シート11は第1中央シート16と前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされている。また、第1中央シート16のスライド機構19によるスライド範囲は、第1側部シート11のスライド機構14によるスライド範囲よりも大きく設定されている。

【0028】

具体的には、図1に二点鎖線で示すように、一対の第1側部シート11をスライド機構14により前端位置に位置させるとともに第1中央シート16をスライ

ド機構19により前端位置に位置させると、一対の第1側部シート11よりも第1中央シート16が所定量後側にずれることになり、V字レイアウトとなる。

【0029】

また、図1に実線で示すように両側の第1側部シート11をスライド機構14により後端位置に位置させるとともに、図1に二点鎖線で示すように第1中央シート16をスライド機構19により前端位置に位置させると、図2にも示すように、両側の第1側部シート11と第1中央シート16とが前後に位置を合わせる直線状のレイアウトになる。

【0030】

さらに、図1に二点鎖線で示すように両側の第1側部シート11をスライド機構14により前端位置に位置させるとともに、図1に実線で示すように第1中央シート16をスライド機構19により後端位置に位置させると、一対の第1側部シート11よりも第1中央シート16が所定量後側にずれることになり、V字レイアウトとなる。このとき、シートバック13, 18の角度を合わせた状態では、第1中央シート16の乗員の肩が第1側部シート11の乗員の肩から完全に離間するように第1中央シート16のスライド機構19によるスライド量が設定されている。

【0031】

加えて、図1に実線で示すように、両側の第1側部シート11をスライド機構14により後端位置に位置させるとともに第1中央シート16をスライド機構19により後端位置に位置させると、図3にも示すように、一対の第1側部シート11よりも第1中央シート16が所定量後側にずれることになり、V字レイアウトとなる。このときも、シートバック13, 18の角度を合わせた状態では、第1中央シート16の乗員の肩が側部シート11の乗員の肩から完全に離間するように第1中央シート16のスライド機構19によるスライド量が設定されている。

【0032】

つまり、第1中央シート16が後端位置に位置する状態では、第1側部シート11の位置に拘わらず常に第1中央シート16の乗員の肩が第1側部シート11

の乗員の肩から完全に離間する設定となる。

【0033】

前から二列目の左右一対の第2側部シート21は、それぞれ、シートクッション22とシートクッション22の後端側に連結されたシートバック23とを有しており、位置固定すなわち前後スライド不可となっている。なお、これら第2側部シート21は左右方向の幅を含めて同じ大きさとなっている。また、二列目の第2側部シート21の左右方向幅は、一列目の第1側部シート11の左右方向幅よりも若干幅狭となっている。

【0034】

二列目の両第2側部シート21の間に設けられる第2中央シート26は、両第2側部シート21のそれぞれの左右方向幅よりも幅狭とされており、一列目の第1中央シート16の左右方向幅よりも若干幅広となっている。また、第2中央シート26の左右方向の中央位置は第2中央シート16の左右方向の中央位置と左右方向で一致している。第2中央シート26は、シートクッション27とシートクッション27の後端側に連結されたシートバック28とを有しており、シートクッション27の下側に設けられたスライド機構29によって単独で前後スライド可能となっている。なお、第2中央シート26は、第2側部シート21に対し、左右方向の幅以外は実質的に同じ大きさとなっている。

【0035】

ここで、第2中央シート26はスライド機構29による前後スライドの範囲が位置固定の第2側部シート21から後側に延びており、第2中央シート26は一対の第2側部シート21と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされている。

【0036】

具体的には、図1に二点鎖線で示すように、第2中央シート26をスライド機構29により前端位置に位置させると、図2にも示すように、両側の第2側部シート21と第2中央シート26とが前後に位置を合わせる直線状のレイアウトになる。

【0037】

また、図1に実線で示すように、第2中央シート26をスライド機構29により後端位置に位置させると、一対の第2側部シート21よりも第2中央シート26が所定量後側にずれることになり、図3にも示すように、V字レイアウトとなる。このとき、シートバック23, 28の角度を合わせた状態では、第2中央シート26の乗員の肩が第2側部シート21の乗員の肩から完全に離間するよう第2中央シート26のスライド機構29によるスライド量が設定されている。

【0038】

次に、二列目の第2中央シート26についてさらに説明する。

二列目の第2中央シート26は、図4に示すように、車室内における車体前側の低位フロア31と、この低位フロア31より高い車体後側の高位フロア32とが隣接して構成される段差フロア33に設けられている。

【0039】

ここで、第2中央シート26のシートバック28は、クッション性を有し乗員の背部を支承するシートバック本体35と、このシートバック本体35を保持するシートバックフレーム36とを有している。

【0040】

また、第2中央シート26のシートクッション27は、クッション性を有し乗員の臀部を支承するシートクッション本体38と、このシートクッション本体38を保持するシートクッションフレーム39とを有している。

【0041】

そして、高位フロア32上には、図5にも示すように、車体前後方向に沿うスライドレール41が左右に離間して一対設けられており、これらスライドレール41は、それぞれ前後方向にのみスライド可能に摺動部42を保持している。これらスライドレール41および摺動部42はスライド機構29を構成している。

【0042】

シートバックフレーム36は略長方形形状の枠部44と、枠部44の長さ方向における一側の左右両側に、枠部44から長さ方向に沿って外側に延出するよう固定された一対の支持部45とを有しており、これら支持部45の延出先端側には、左右方向に中心軸線を配置した回転軸46がそれぞれ設けられている。そし

て、これら回動軸46が、両側の摺動部42にそれぞれ支持されている。これにより、シートバックフレーム36は回動軸46を中心に略鉛直に沿う立設状態から前傾可能となっており、このシートバックフレーム36の枠部44に支持されるシートバック本体35を含むシートバック28が、全体として、回動軸46を中心に略鉛直に沿う立設状態から前傾可能となっている。

【0043】

以上の結果、スライドレール41で案内されてスライドする摺動部42にシートバック28が前傾可能に軸支されている。

【0044】

シートバックフレーム36の立設状態において両支持部45の回動軸46よりも所定量上側となる位置には、左右方向に中心軸線を配置した支持軸48がそれぞれ取り付けられている。そして、これら支持軸48には、シートクッションフレーム39の後部が回動可能に軸支されている。すなわち、シートクッションフレーム39は、各支持軸48からそれぞれ下方に延出したのち前方に延出する一対の延出部49と、これら延出部49の延出先端側を連結させる左右方向に沿う連結部50とを有するコ字状をなしている。そして、このシートクッションフレーム39の若干連結部50側にシートクッション本体38が支持される。

【0045】

シートクッションフレーム39の前端の連結部50には、左右一対の支持部材52が取り付けられており、これら支持部材52には、左右方向に中心軸線を配置した回動軸53がそれぞれ設けられている。これら回動軸53にはリンクアーム55の一端が回動可能に連結されている。すなわちリンクアーム55は回動軸53から延出する一対の延出部56と、これら延出部56の延出先端側を連結させる左右方向に沿う連結部57とを有するコ字状をなしている。

【0046】

そして、低位フロア31には、リンクアーム55の先端側の連結部57を着脱可能に連結させるとともに連結状態において連結部57を回動可能に支持する着脱支持部59が取り付けられている。

【0047】

以上の結果、シートクッションフレーム39の前部である連結部50が低位フロア31とリンク結合されている。

【0048】

ここで、上記したように、一対の第2側部シート21および第2中央シート26は、これら一対の第2側部シート21および第2中央シート26の全体の左右方向の幅と略同幅を有する荷室30の直前位置に設けられている。なお、第2中央シート26の後側には、第2中央シート26の背面60に当接可能な当接板61が中央シート26よりも後方の荷室30の平坦な荷室フロア62に摺動可能に連結されている。

【0049】

上記した平坦な荷室フロア62は、一対の第2側部シート21および第2中央シート26より後側にあって、これらと左右方向の幅を略一致させており、第2中央シート26の立設状態のシートバック28の背面60に傾斜状態で当接する当接板61の部分が除かれたU字状をなしている。

【0050】

なお、図9に示すように、一列目の一対の第1側部シート11および第1中央シート16は、低位フロア31の前方のさらに低位のフロア69に配置されている。

【0051】

次に、上記第2中央シート26の作動について説明する。

まず、通常の乗員が着座可能な着座状態について図4および図6を参照して説明する。

【0052】

着座状態においては、シートバック28が立設状態で図示せぬロック機構により摺動部42に対し固定されている。また、リンクアーム55の連結部57は着脱支持部59に連結されている。なお、ロック機構はシートバック28を着座可能な着座姿勢で摺動部42に固定可能および固定解除可能となっている。

【0053】

この着座状態において、摺動部42がスライドレール41に沿って摺動する。

ここで、摺動部42は、スライドロック機構63によりスライドレール41に対し複数の位置において固定可能および固定解除可能となっている。

【0054】

そして、摺動部42が、例えば図4に示すようにスライド範囲の後端位置に位置する状態から図6に示すようにスライド範囲の前端位置に位置する状態まで高位フロア32に固定されたスライドレール41に案内されてスライドすると、摺動部42に固定された状態のシートバック28はそのままの姿勢でスライドする一方、シートバック28の支持軸48に回動可能に連結されたシートクッション27は、前部の回動軸53に回動可能に連結されたリンクアーム55を、着脱支持部59に支持された連結部57を中心に回動させることにより、前部側を若干円弧状の軌跡を描かせるように上下させながらスライドする。また、後方にスライドする場合は上記とは逆の作動を行う。

【0055】

以上により、前後スライドする際に、シートバック28は高位フロア32のスライドレール41で案内される摺動部42に軸支され、またシートクッション本体38を支持するシートクッションフレーム39は、シートバック28に後部が軸支されるとともに前部が低位フロア31にリンク結合されているため、フロアから自由に持ち上がることなく、安定して前後移動できる。

【0056】

次に、ダイブダウン収納状態について説明する。

摺動部42が、図6に示すようにスライド範囲の前端位置に位置する状態で、ロック機構によるロックを解除すると、図示せぬスプリングの付勢力でシートバック28が回動軸46を中心に回動して前倒する。すると、シートバック28において回動軸46よりも上側に位置していた支持軸48が前側かつ下側に移動し、その結果、図7に示すように、シートクッションフレーム39は、支持軸48に連結されている後部側が前側かつ下側に移動するとともに、前部の回動軸53に回動可能に連結されたリンクアーム55が着脱支持部59に支持された連結部57を中心に前傾することで、前部側も前側かつ下側に移動し、その結果、全体

として前側かつ下側に移動して、保持するシートクッション本体38を前側かつ下側に移動させて低位フロア31側に落とし込む。このとき、シートバック28はシートクッション27に重なり合って背面60が略水平となる。これに合わせて、中央シート26の背面60に当接する当接板61も略水平となる。

【0057】

このように、第2中央シート26をそのシートバック28を前倒させて前方の低位フロア31に落とし込んだ状態では、当接板61と中央シート26のシートバック28の背面60とが略水平になることで、荷室フロア62と当接板61の上面65とシートバック28の背面60とが略平坦となり、図8に示すように、第2中央シート26のシートバック28から荷室フロア62まで略平坦な平面視逆T字状のフロア66を形成する。その結果、この逆T字状のフロア65上に図示せぬ車体ルーフまでの逆T字状のスペース67を形成することになる。

【0058】

ここで、一列目の第1中央シート16のシートバック18をシートクッション17上に載置されるまで前倒させると、図9に示すように、低位フロア31の前方のさらに低位のフロア69に設けられた一列目の第1中央シート16は、そのシートバック18の背面70が第2中央シート26のシートバック28の背面60と略平坦面をなすことになり、図10に示すように、上記した逆T字状のフロア66を第1中央シート16のシートバック18まで前方に延長した形状の逆T字状のフロア71を形成することができる。その結果、この逆T字状のフロア71上に、上記逆T字状のスペース67を前方に延長した逆T字状のスペース72を図示せぬ車体ルーフまで形成することになる。

【0059】

なお、図示を略すが、第2中央シート26においては、シートバック28を立設状態とし、リンクアーム55を着脱支持部59から取り外してシートクッション27を支持軸48を中心に回動させて、シートバック28に立てかけることも可能である。このとき、リンクアーム55は自重により下方に延在する状態となる。

【0060】

また、図示を略すが、シートベルトのインナーアンカーをスライドレール41で案内される摺動部42に取り付けることにより、シートベルト取付点がスライド位置に左右されなくなるので、シートベルトのフィット感がスライドしても常に得られることになる。

【0061】

以上に述べた本実施形態によれば、一列目の一対の第1側部シート11が前後スライド可能とされているため、運転者の体格に合わせて前後位置を調節することができる。したがって、運転者が運転しにくくなることを防止することができる。

【0062】

また、一列目において、第1中央シート16は一対の第1側部シート11と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一対の第1側部シート11は第1中央シート16と前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされているため、三人掛けをしたとき、乗員がV字状のレイアウトができるなどを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて適当に第1側部シート11あるいは第1中央シート16をスライドさせれば確実にV字状のレイアウトになる。二列目においても、第2中央シート26は一対の第2側部シート21と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一対の第2側部シート21は位置固定とされているため、三人掛けをしたとき、乗員がV字状のレイアウトができるなどを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて第2中央シート26の乗員が適当にこれをスライドさせれば確実にV字状のレイアウトになる。したがって、適当にシートをスライドさせるだけで確実にV字状のレイアウトが可能となる。よって、小型乗用車両においても、V字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止しつつ快適な6人乗りが可能となる。

【0063】

さらに、一列目において、第1中央シート16および一対の第1側部シート11は互いの前端部同士を合わせることができ、第2中央シート26および一対の第2側部シート21も互いの前端部同士を合わせることができるために、第1中央

シート16が第1側部シート11に対しづれていない直線状のレイアウトにでき、第2中央シート26が第2側部シート21に対しづれていない直線状のレイアウトにできる。したがって、これらのレイアウトにすれば、停車中に乗員が第1中央シート16および一対の第1側部シート11に横たわって休憩したり、第2中央シート26および一対の第2側部シート21に横たわって休憩したりする際に、良好に横たわることができる。

【0064】

加えて、第1中央シート16の幅は一対の第1側部シート11のそれぞれの幅よりも狭くされるとともに、第2中央シート26の幅は一対の第2側部シート21のそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第1側部シート11および第2側部シート21の幅を確保できる。したがって、圧倒的に頻度の高い少人数乗車時の座り心地が犠牲になることを防止できる。

【0065】

また、高位フロア32に配置された第2中央シート26をそのシートバック28を前倒させた状態で前方の低位フロア31に落とし込むことで、第2中央シート26のシートバック28から荷室フロア62まで略平坦な平面視逆T字状のフロア66を形成してこの逆T字状のフロア66上に車体ルーフまでの平面視逆T字状のスペース67を形成することになるため、長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手が向上する。

【0066】

加えて、第1中央シート16のシートバック18を前倒させることで、シートバック18まで前方に延長した平面視逆T字状のフロア71を形成してこの逆T字状のフロア71上に車体ルーフまでの平面視逆T字状のスペース72を形成することになるため、さらに長い長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手がさらに向上する。

【0067】

【発明の効果】

以上詳述したように、請求項1に係る発明によれば、一列目の一対の第1側部シートが前後スライド可能とされているため、運転者の体格に合わせて前後位置

を調節することができる。したがって、運転者が運転しにくくなることを防止することができる。

【0068】

また、一列目において、第1中央シートは一对の第1側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一对の第1側部シートは第1中央シートと前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされているため、三人掛けをしたとき、乗員がV字状のレイアウトができるなどを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて適当にシートをスライドさせれば確実にV字状のレイアウトになる。したがって、適当にシートをスライドさせるだけで確実にV字状のレイアウトが可能となる。

【0069】

さらに、一列目において、第1中央シートおよび一对の第1側部シートは互いの前端部同士を合わせることができるために、第1中央シートが第1側部シートに對しづれていらないレイアウトにできる。したがって、このレイアウトにすれば、停車中に乗員が第1中央シートおよび一对の第1側部シートに横たわって休憩する際に、良好に横たわることができる。

【0070】

加えて、第1中央シートの幅は一对の第1側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第1側部シートの幅を確保できる。したがって、圧倒的に頻度の高い少人数乗車時の座り心地が犠牲になることを防止できる。

【0071】

以上により、第1中央シートの幅を狭くするとともに第1側部シートの幅を広くすることで、小型乗用車両の制限されたスペース内での6人乗りが可能になるとともに、V字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止して快適な6人乗りが可能となる。

【0072】

請求項2に係る発明によれば、二列目においても、第2中央シートは一对の第2側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能

とされ、一対の第2側部シートは位置固定とされているため、三人掛けをしたとき、乗員がV字状のレイアウトができるなどを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて中央シートの乗員が適当にシートをスライドさせれば確実にV字状のレイアウトになる。したがって、適当にシートをスライドさせるだけで確実にV字状のレイアウトが可能となる。

【0073】

さらに、第2中央シートおよび一対の第2側部シートも互いの前端部同士を合わせることができるために、第2中央シートが第2側部シートに対しづれていないレイアウトにできる。したがって、このレイアウトにすれば、停車中に乗員が第2中央シートおよび一対の第2側部シートに横たわって休憩する際に、良好に横たわることができる。

【0074】

加えて、第2中央シートの幅は一対の第2側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第2側部シートの幅を確保できる。したがって、圧倒的に頻度の高い少人数乗車時の座り心地が犠牲になることを防止できる。

【0075】

以上により、第2中央シートの幅を狭くするとともに第2側部シートの幅を広くすることで、小型乗用車両の制限されたスペース内での6人乗りが可能になるとともに、V字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止して快適な6人乗りが可能になる。

【0076】

請求項3に係る発明によれば、第2中央シートをそのシートバックを前倒させた状態で前方の低位のフロアに落とし込むことで、第2中央シートのシートバックから荷室のフロアまで略平坦な逆T字状のフロアを形成してこの逆T字状のフロア上に逆T字状のスペースを形成することになるため、長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手が向上する。

【0077】

請求項4に係る発明によれば、第1中央シートのシートバックを前倒させるこ

とで、逆T字状のフロアを第1中央シートのシートバックまで前方に延長し逆T字状のスペースを第1中央シートのシートバック上まで前方に延長することになるため、さらに長い長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手がさらに向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を示す平面図である

【図2】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造の一状態を示す斜視図である。

【図3】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造の別の状態を示す斜視図である。

【図4】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造に使用された第2中央シートを示すものであって、後端位置に位置する状態を示す側面図である。

【図5】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造に使用された第2中央シートを示す斜視図である。

【図6】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造に使用された第2中央シートを示すものであって、前端位置に位置する状態を示す側面図である。

【図7】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造に使用された第2中央シートを示すものであって、ダイブダウン収納状態を示す側面図である。

【図8】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を示すものであって、第2中央シートのダイブダウン収納状態を示す平面図である。

【図9】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を示すものであって、第2中央シートのダイブダウン収納状態および第1中央シートの前倒状態を示す側面図である。

【図10】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を示すものであって、第2中央シートのダイブダウン収納状態および第1中央シートの前倒状態を示す平面図である。

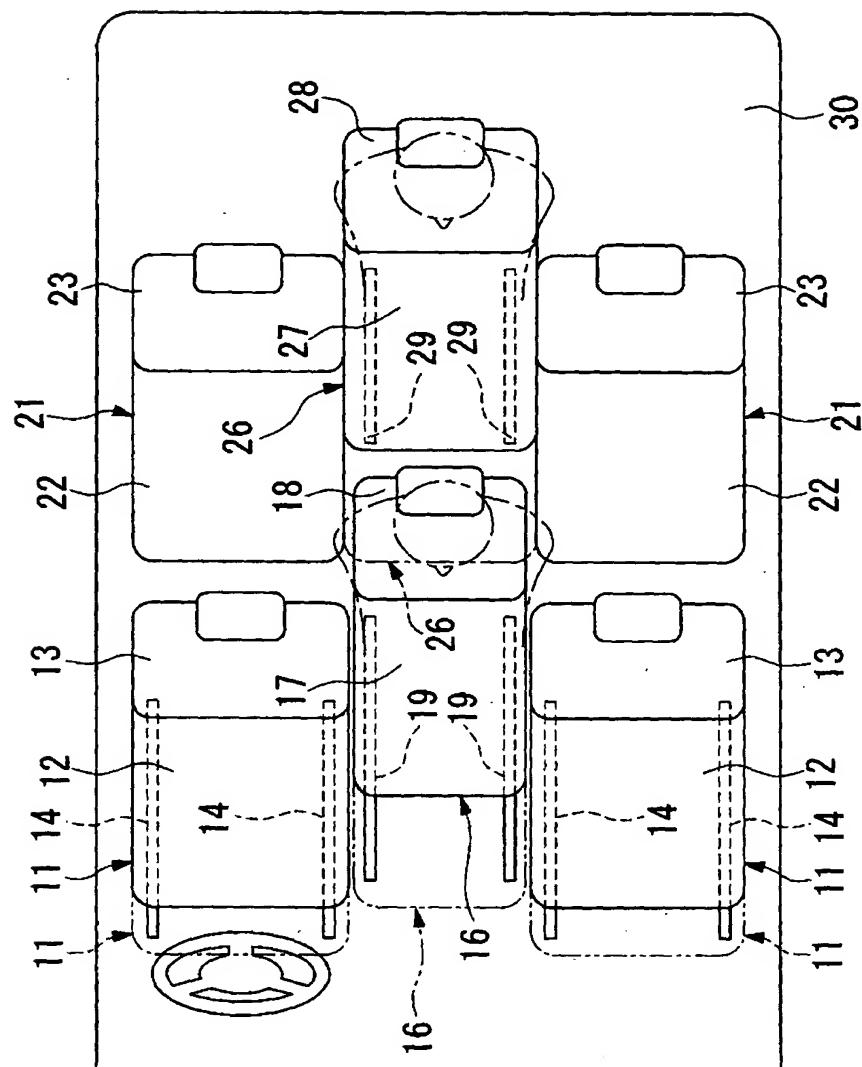
【符号の説明】

1 1 第1側部シート

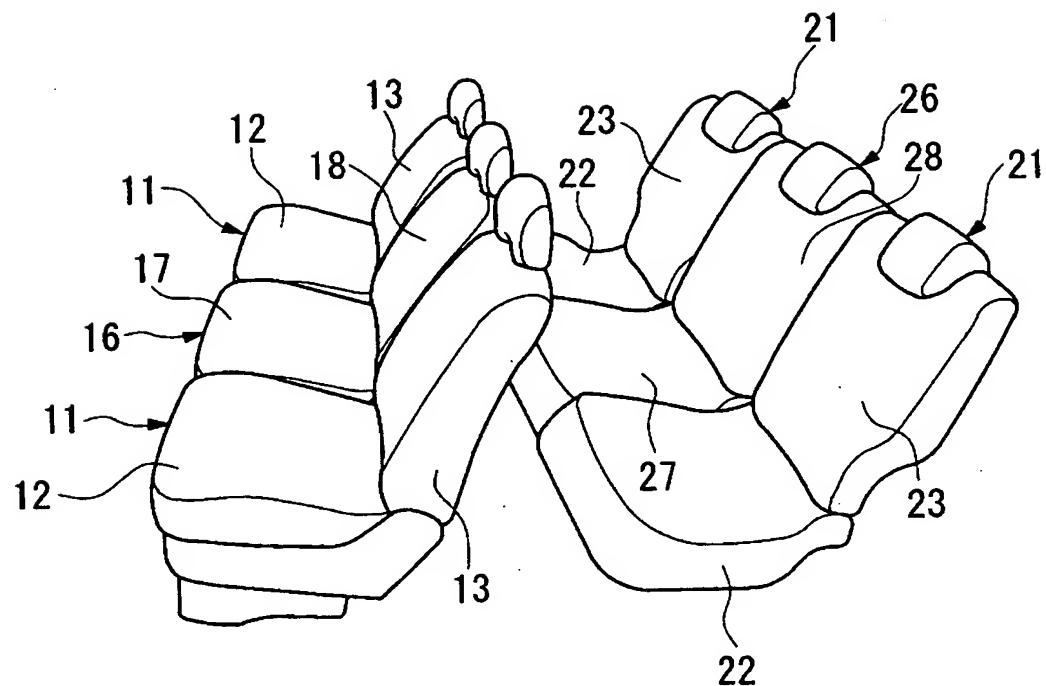
- 1 6 第1中央シート
- 2 1 第2側部シート
- 2 6 第2中央シート
- 3 0 荷室
- 3 1 低位フロア（フロア）
- 6 6 逆T字状のフロア
- 6 7 逆T字状のスペース
- 7 1 前方に延長された逆T字状のフロア
- 7 2 前方に延長された逆T字状のスペース

【書類名】 図面

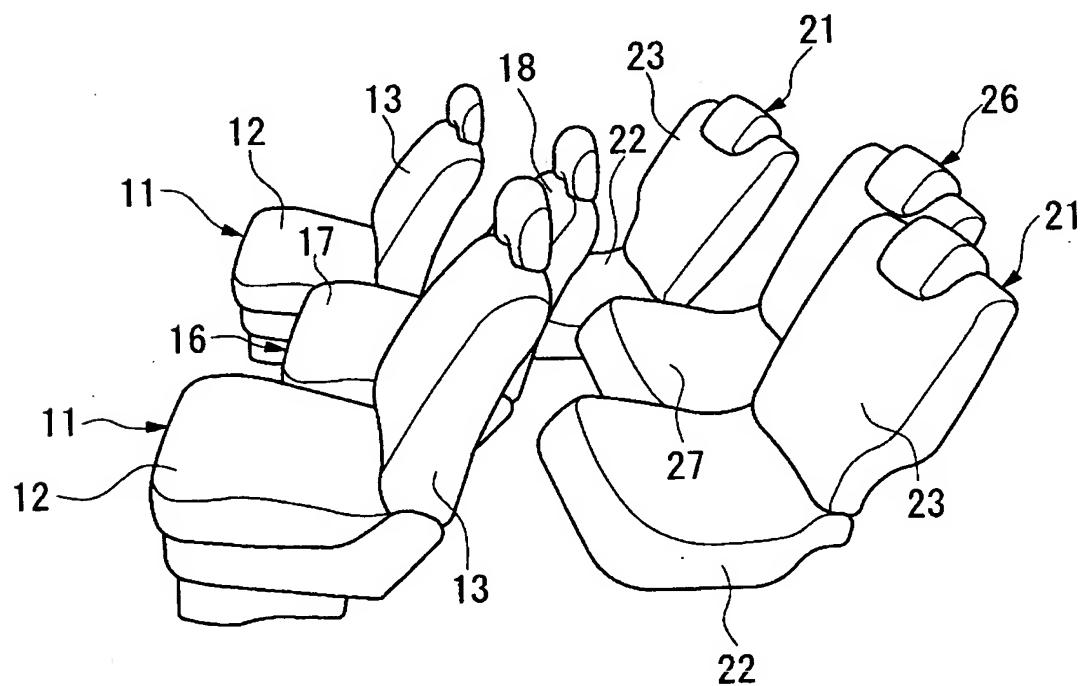
【図1】



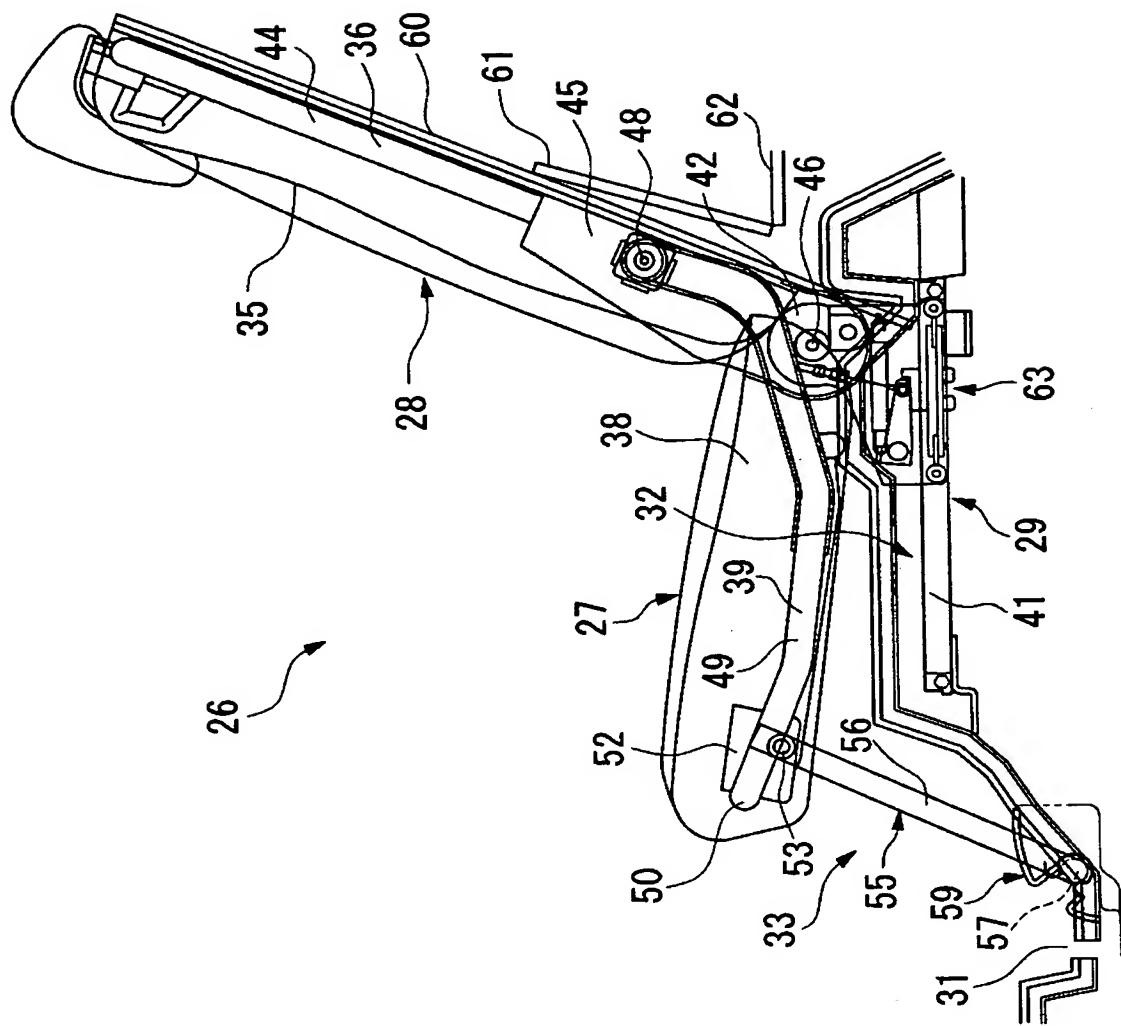
【図2】



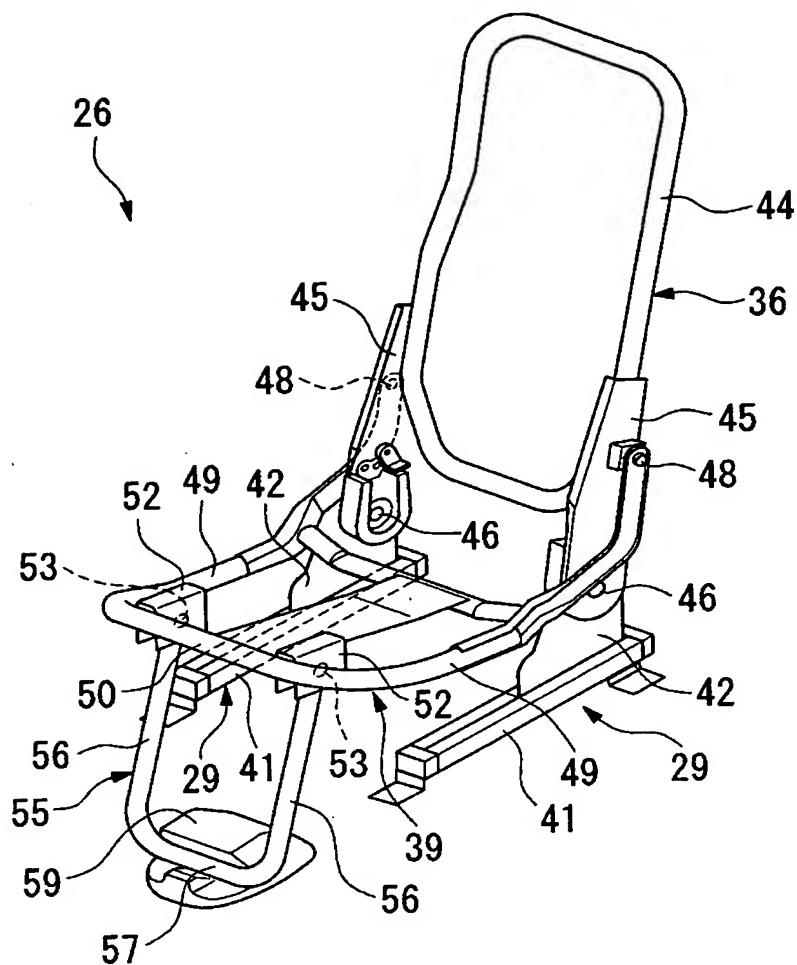
【図3】



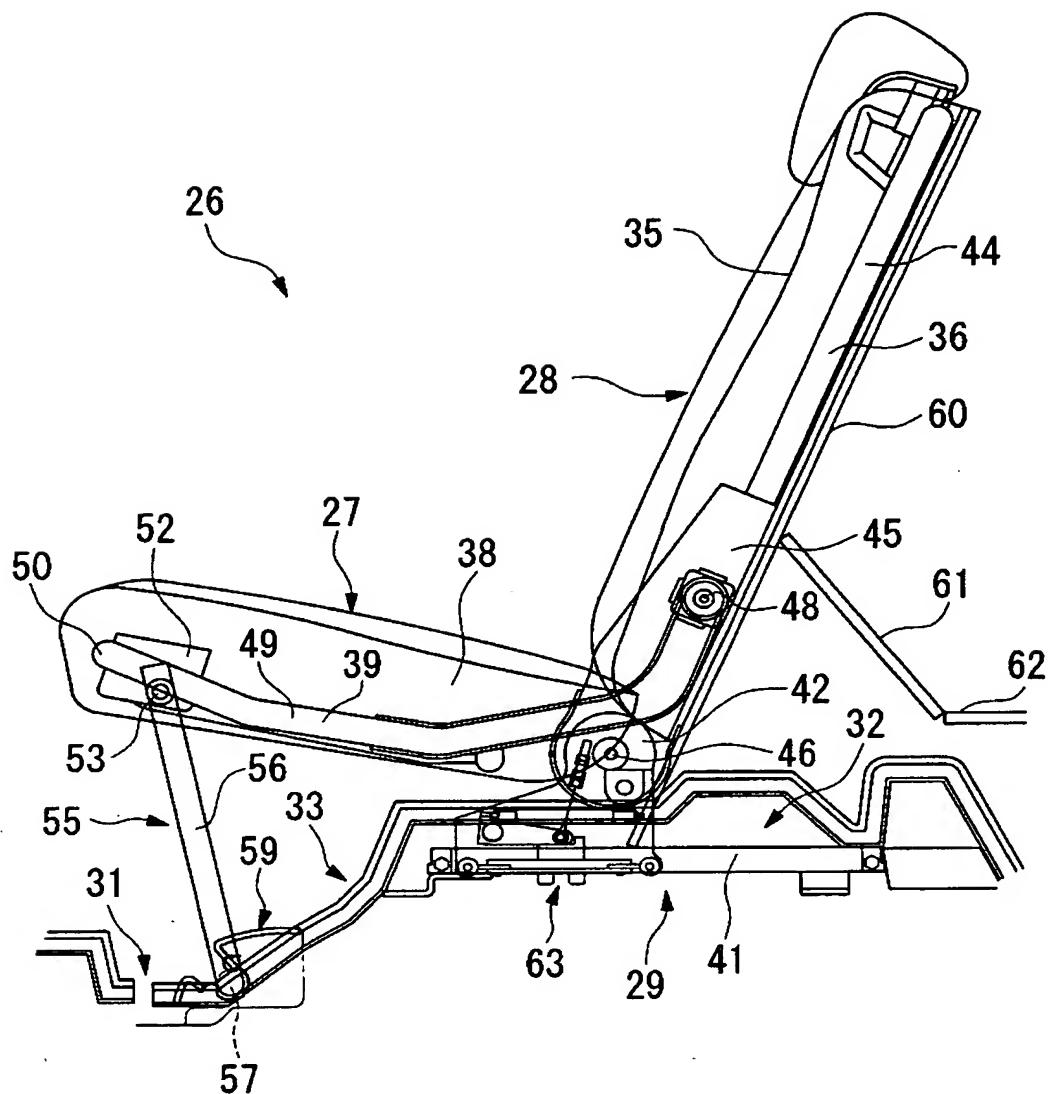
【図4】



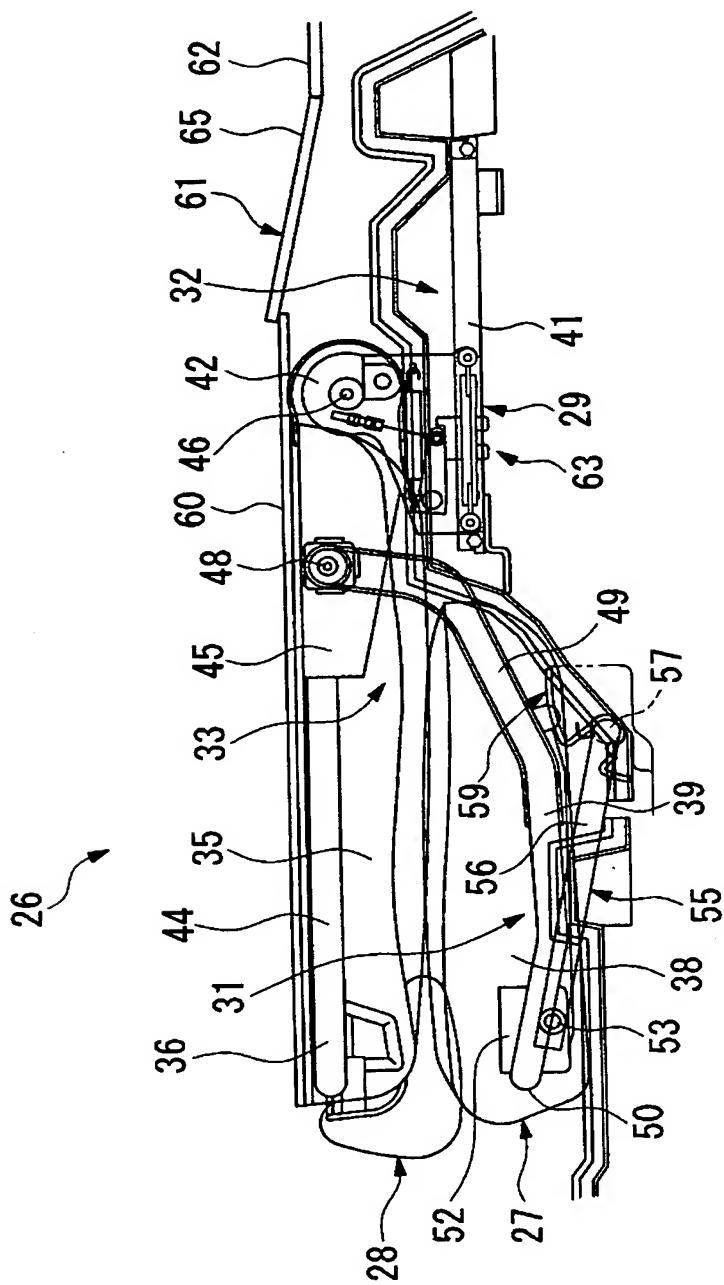
【図5】



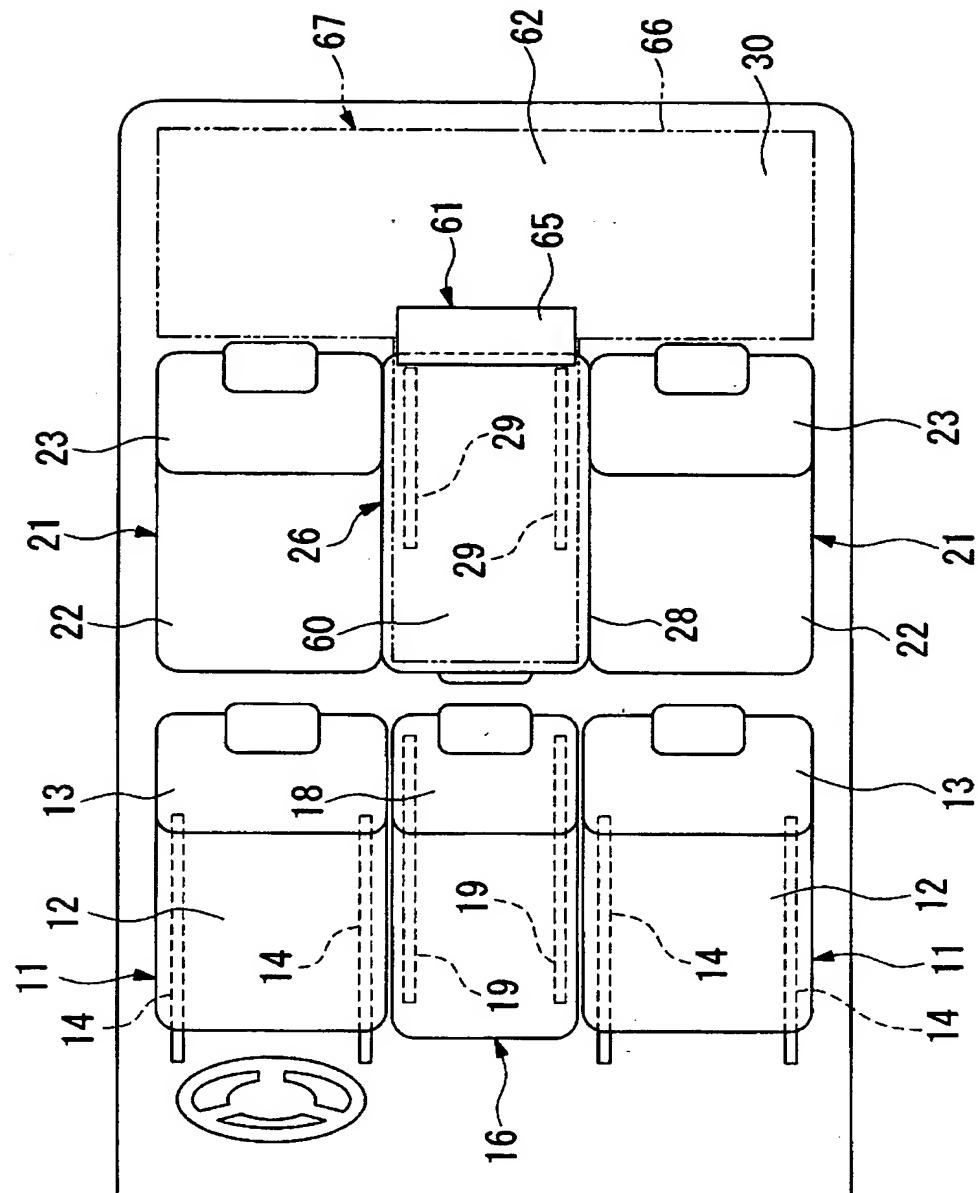
【図6】



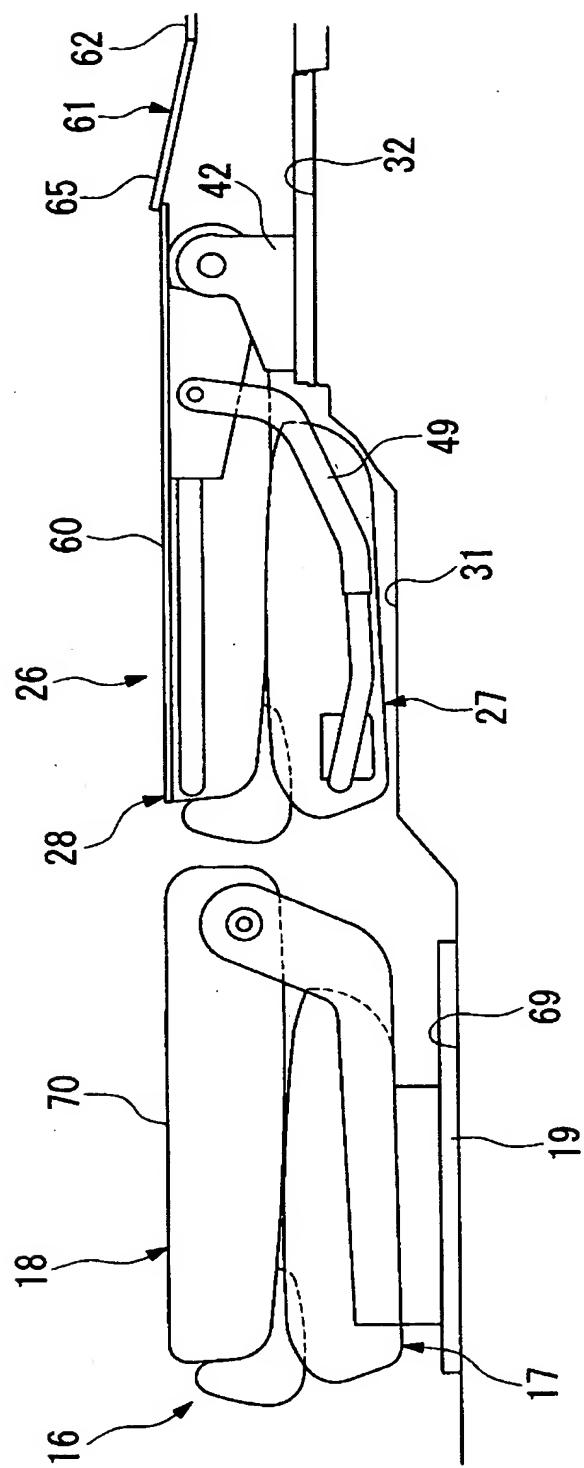
【図7】



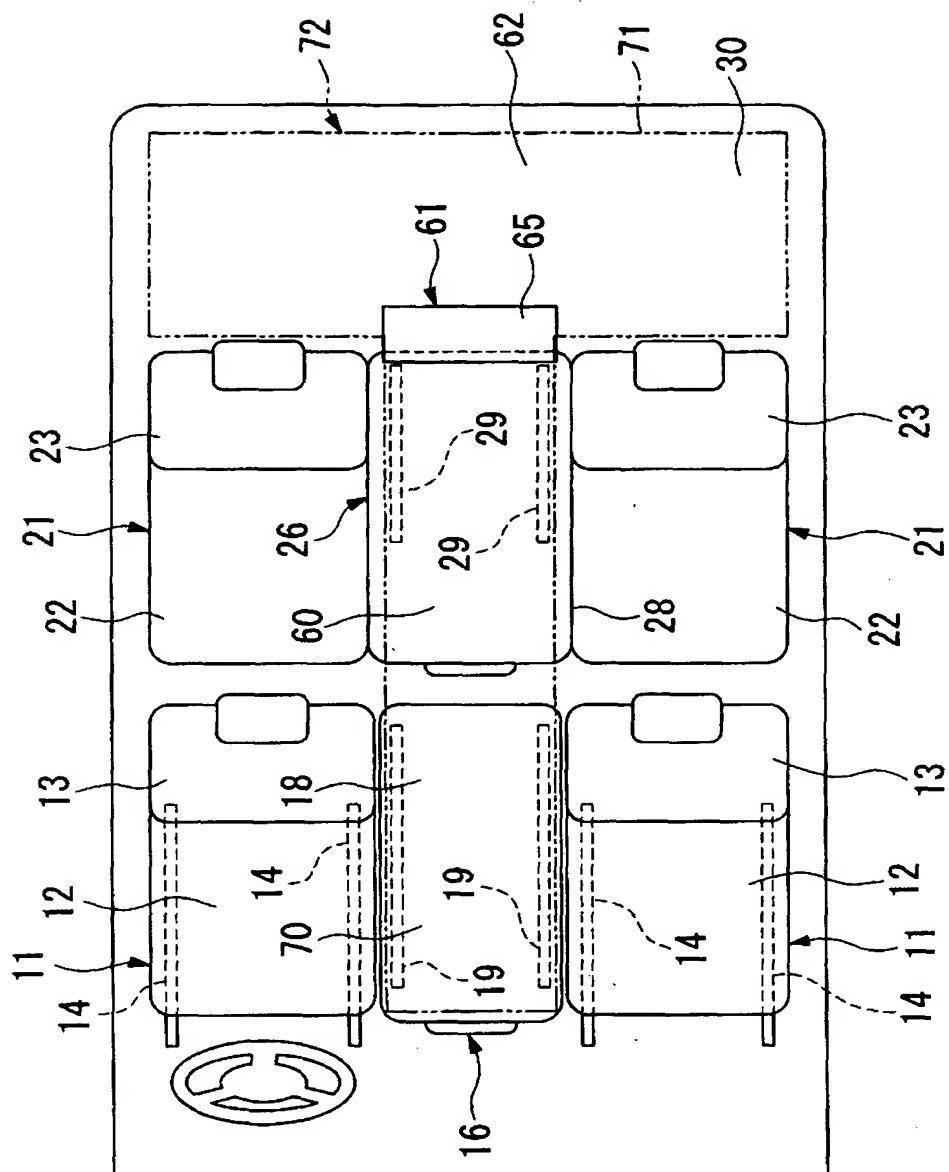
【図8】



【図9】



【図10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 運転者が運転しにくくなることを防止でき、少人数乗車時の座り心地が犠牲になることも防止できて、確実にV字状のレイアウトが可能となる車両用シート配列構造の提供。

【解決手段】 第1中央シート16が一対の第1側部シート11と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一対の第1側部シート11が第1中央シート16と前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされており、第1中央シート16の幅は第1側部シート11の幅よりも狭くされている。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-273351
受付番号	50201404087
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成14年 9月20日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000005326
【住所又は居所】	東京都港区南青山二丁目1番1号
【氏名又は名称】	本田技研工業株式会社
【代理人】	申請人
【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】	100094400
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】	100107836
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所

次頁有

認定・付加情報（続き）

【氏名又は名称】 西 和哉
【選任した代理人】
【識別番号】 100108453
【住所又は居所】 東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル
志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】 村山 靖彦

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [000005326]

1. 変更年月日 1990年 9月 6日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都港区南青山二丁目1番1号
氏 名 本田技研工業株式会社